

第7回JSTワークショップ「公正な研究活動の推進」-研究倫理教育の必要性と教育目標を考える-

グループワーク2では、ある研究組織を設定し、研究倫理教育の課題を解決するための研究倫理教育プログラム（学習・教育目標、教育内容）を計画します。

参加申込みの際に、ご自身が検討したい組織を以下の組織1～5から2つご選択ください。グループ分けの際に参考とさせていただきます。2つ選択が難しい場合は、うち1つを「その他」とし、自由記述してください。

なお、記載されている課題は一例ですので、グループ討議で追加・変更することが可能です。

組織 1	教育内容	理工・ライフ系教職員・学生を対象に、e-learningや年1～数回、集合型研修を実施
	課題	例) 受講者に研究倫理の必要性を理解してもらえない
		例) 当事者意識がなく、教育が実践に結びついていないように感じられる
組織 2	教育内容	医学薬学系教職員を対象に、e-learningや年1～数回、集合型研修を実施
	課題	例) 教育を実施しているが、理解が定着しない
		例) 受講者が業務多忙で時間が十分に割けない
組織 3	教育内容	人社系教職員を対象に、e-learningや年1～数回、集合型研修を実施
	課題	例) 教育内容が定着したかを把握しにくい
		例) 当事者意識がなく、教育が実践に結びついていないように感じられる
組織 4	教育内容	学生を対象に、研究倫理の講義を実施
	課題	例) 教育が実践に結びついていないように感じられる
		例) 選択科目のため、研究公正への関心が一部学生に限定されている
組織 5	教育内容	特定不正行為（FFP;ねつ造・改ざん・盗用）の教育は実施、疑わしい研究行為（QRP）の教育に着手
	課題	例) 学協会によって投稿規定が異なる部分があり、体系的な教え方が分からない
		例) どこまでが「疑わしい研究行為」なのか線引きが難しい